

## 平成18年3月期第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年2月8日

上場会社名 日本新薬株式会社

コード番号4516 東証・大証（各1部）

(URL <http://www.nippon-shinyaku.co.jp/>)

代表者 代表取締役社長 初山 一登

問合せ先 執行役員経理・財務部長 桜井 太郎

TEL (075) 321-1111

### 1. 四半期情報の作成等に係る事項

① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無

② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

(内容) 当中間連結会計期間より、固定資産の減損に係る会計基準（「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成14年8月9日）及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第6号 平成15年10月31日））を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。

③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

### 2. 平成18年3月期第3四半期財務・業績の概況（平成17年4月1日～平成17年12月31日）

#### (1) 経営成績（連結）の進捗状況

(百万円未満切捨)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成18年3月期第3四半期	41,665	1.4	3,660	△14.4	3,961	△9.6	2,326	△57.8
平成17年3月期第3四半期	41,089	2.7	4,278	—	4,383	—	5,514	—
(参考) 平成17年3月期	54,251		4,596		4,656		5,639	

	1株当たり四半期（当期）純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益
	円 銭	円 銭
平成18年3月期第3四半期	34.12	—
平成17年3月期第3四半期	80.26	—
(参考) 平成17年3月期	81.22	—

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。営業利益、経常利益、四半期（当期）純利益は平成17年3月期第1四半期から開示を始めたため、平成17年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### 【経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等】

##### 「売上高」

当第3四半期の連結売上高は、416億6千5百万円（対前年同四半期比1.4%増収）となりました。

医薬品事業におきましては、主力品である頻尿治療剤「ブラダロン」、アズレン含嗽液「アズノールうがい液」、非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤「ハイペン」、経口糖尿病用剤「グリコラン」、粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤「ガスロンN」等が伸長する一方、前立腺肥大症治療剤「エビプロスタット」、抗リウマチ剤「オークル」、高血圧・狭心症治療剤「セレクトール」等の売上は伸び悩みました。こうした要因に、新発売品である褥瘡・皮膚潰瘍治療剤「ヨードコート軟膏」および再発・難治性急性前骨髄球性白血病治療剤「トリセノックス」、「アムノレイク」の売上が加わりました。また、工業所有権等収益は大幅に減少したものの、合成抗菌剤「ブルリフロキサシン」原薬の売上が大幅に伸長いたしました。その結果、当第3四半期の売上高は342億6千5百万円となりました。

食品事業におきましては健康食品素材とたん白製剤の売上増加により、当第3四半期の売上高は74億円となりました。

「営業利益」

売上原価、販売費及び一般管理費については前年同四半期とほぼ同水準とすることができましたが、研究開発費は臨床試験が順調に進捗したことに伴い、前年同四半期に比し11億7千1百万円（20.0%）増加し、当第3四半期の営業利益は36億6千万円（対前年同四半期比14.4%減益）となりました。

「経常利益」

営業外収益と費用の収支が利益3億1百万円となり、当第3四半期の経常利益は39億6千1百万円（対前年同四半期比9.6%減益）となりました。

「四半期純利益」

前年同四半期には当社の厚生年金の代行返上および土地等固定資産売却に伴う特別利益51億3千2百万円を計上しましたが、当第3四半期は土地等固定資産売却に伴う特別利益の計上は2億9千2百万円で、その結果、当第3四半期の純利益は23億2千6百万円（対前年同四半期比57.8%減益）となりました。

「研究開発の状況」

申請中の過活動膀胱治療剤「ウレスパン（商品名）」の追加臨床試験は順調に進んでいます。臨床試験段階の品目では、経口鎮痛剤「NS-315（一般名：塩酸トラマドール）」は癌性疼痛について追加臨床試験を準備中です。同一成分の徐放性経口鎮痛剤「TRK-091」は東レ株式会社と共同で整形外科領域において第二相試験を実施中です。久光製薬株式会社と共同開発中の吸入ステロイド剤「NS-126」はアレルギー性鼻炎について第三相試験での投薬を終えました。同社の癌性疼痛緩和テープ剤「HFT-290」（一般名：クエン酸フェンタニル）については第三相試験を開始しました。アルコール依存症治療剤「NS-11」（一般名：アカンプロセート）」については第二相試験の準備中です。

海外では、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」について、韓国において導出先の柳韓洋行社により第三相試験を実施中で、米国においても導出先のオプティマー社による第三相試験がまもなく開始されます。経口抗癌剤「HMN-214」は導出先の米国・アイバックス社により第二相試験を準備中です。米国において自社で実施中の肝癌治療剤「NS-9」の第一相試験はまもなく終了する見込みです。過活動膀胱治療剤「NS-8」については、導出先のドイツ・アポゲファ社により第二相試験を実施中です。高脂血症治療剤「NS-220」については導出先のスイス・ロシュ社により第一相反復投与試験を実施中です。前臨床段階の慢性骨髄性白血病治療剤「NS-187」については、昨年末に米国・イノバイブ社と導出契約を締結しました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

(百万円未満切捨)

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
18年3月期第3四半期	103,499	75,093	72.6	1,101.41
17年3月期第3四半期	100,238	69,877	69.7	1,024.08
(参考) 17年3月期	98,909	70,009	70.8	1,025.26

【連結キャッシュ・フローの状況】

(百万円未満切捨)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第3四半期	△180	△1,241	△1,985	12,649
17年3月期第3四半期	—	—	—	—
(参考) 17年3月期	2,804	△504	△6,393	15,951

(注) 四半期連結キャッシュ・フローの開示は平成18年3月期第1四半期より実施しておりますので、前年同四半期の実績は記載しておりません。

【財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等】

「資産」

総資産は、現金及び預金等が減少しましたが、株価水準の上昇による投資有価証券の増加により、1,034億9千9百万円と前連結会計年度末に比べ45億9千万円の増加となりました。

「負債及び資本」

負債は、株価水準の上昇により繰延税金負債が増加したものの、借入金や引当金等の減少により、282億6千9百万円と前連結会計年度末に比べ5億1百万円の減少となりました。

資本は、利益剰余金とその他有価証券評価差額金の増加により750億9千3百万円と前連結会計年度末に比べ50億8千4百万円の増加となりました。

株主資本比率につきましては、72.6%と前連結会計年度末より上昇しました。

（キャッシュ・フローの状況）

当四半期会計期間における現金及び現金同等物の残高は126億4千9百万円となり、前連結会計年度末に比し33億2百万円の減少となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは1億8千万円の支出となりました。主なプラス要因は、税金等調整前四半期純利益42億5千3百万円、減価償却費19億9千5百万円等であり、主なマイナス要因は、売上債権・棚卸資産の増加24億8千3百万円、法人税等の支払額20億2千8百万円、その他引当金の減少12億3千1百万円等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは12億4千1百万円の支出となりました。主なプラス要因は有価証券・投資有価証券の売却・償還による収入9億9千6百万円であり、主なマイナス要因は投資有価証券取得による支出18億7千4百万円、有形固定資産取得による支出6億1百万円、契約金の支払2億4千1百万円等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは19億8千5百万円の支出となりました。主な要因は長期借入金の返済9億6千9百万円、配当金の支払額9億6千1百万円等によるものです。

3. 平成18年3月期の連結業績予想（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

当第3四半期の業績は概ね順調に推移しており、通期連結業績予想につきましては、平成17年11月11日の中間決算公表時と変更はありません。

〔ご参考〕

平成18年3月期の連結業績予想（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
通期	54,300	3,200	3,600	1,950

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期）28円60銭

- ・百万円未満は切捨てして表示しています。
- ・上記の予想は、本資料の発表日現在の入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

科目	前連結第3四半期 (平成16. 4. 1 から 平成16. 12. 31まで)	比率 (%)	当連結第3四半期 (平成17. 4. 1 から 平成17. 12. 31まで)	比率 (%)	増減	〈参考〉 前連結会計年度 (平成16. 4. 1 から 平成17. 3. 31まで)
売上高	41,089	100.0	41,665	100.0	+576	54,251
売上原価	17,446	42.5	17,436	41.8	△10	23,150
返品調整引当金戻入額	2	0.0	10	0.0	+8	3
売上総利益	23,645	57.5	24,238	58.2	+593	31,103
販売費及び一般管理費	13,500	32.8	13,541	32.5	+41	18,021
研究開発費	5,866	14.3	7,037	16.9	+1,171	8,485
営業利益	4,278	10.4	3,660	8.8	△618	4,596
営業外収益	602	1.5	736	1.8	+134	809
営業外費用	496	1.2	435	1.1	△61	748
経常利益	4,383	10.7	3,961	9.5	△422	4,656
特別利益	5,132	12.5	292	0.7	△4,840	5,151
特別損失	—	—	—	—	—	178
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	9,516	23.2	4,253	10.2	△5,263	9,629
法人税・住民税及び事 業税	1,302	3.2	1,216	2.9	△86	2,012
法人税等調整額	2,697	6.6	702	1.7	△1,995	1,990
少数株主利益	1	0.0	7	0.0	+6	△12
四半期(当期) 純利益	5,514	13.4	2,326	5.6	△3,188	5,639

四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

科目	前連結 第3四半期末 (平成16.12.31)	比率 (%)	当連結 第3四半期末 (平成17.12.31)	比率 (%)	〈参考〉 前連結 会計年度末 (平成17.3.31)	比率 (%)	対前連結 会計年度末 増減
資産の部	100,238	100.0	103,499	100.0	98,909	100.0	+4,590
流動資産	56,123	56.0	52,983	51.2	55,023	55.6	△2,040
現金及び預金	16,381		12,248		15,550		△3,302
受取手形及び売掛金	26,459		27,819		25,781		+2,038
有価証券	1,300		800		1,300		△500
棚卸資産	8,496		8,942		8,495		+447
繰延税金資産	943		955		1,646		△691
その他	2,543		2,218		2,248		△30
貸倒引当金	△0		△0		△0		+0
固定資産	44,114	44.0	50,515	48.8	43,886	44.4	+6,629
有形固定資産	22,747	22.7	21,676	20.9	22,330	22.6	△654
建物及び構築物	10,412		10,011		10,314		△303
土地	8,362		8,279		8,350		△71
その他	3,972		3,385		3,665		△280
無形固定資産	660	0.7	336	0.3	573	0.6	△237
投資その他の資産	20,706	20.6	28,502	27.6	20,982	21.2	+7,520
投資有価証券	14,973		23,262		15,315		+7,947
繰延税金資産	42		48		60		△12
投資不動産	1,355		1,323		1,343		△20
その他	4,378		3,911		4,304		△393
貸倒引当金	△42		△42		△41		△1
合計	100,238	100.0	103,499	100.0	98,909	100.0	+4,590

(単位 百万円)

科目	前連結 第3四半期末 (平成16.12.31)	比率 (%)	当連結 第3四半期末 (平成17.12.31)	比率 (%)	〈参考〉 前連結 会計年度末 (平成17.3.31)	比率 (%)	対前連結 会計年度末 増減
負債の部	30,217	30.1	28,269	27.3	28,770	29.1	△501
流動負債	14,161	14.1	12,140	11.7	13,541	13.7	△1,401
支払手形及び買掛金	3,665		4,011		3,711		+300
短期借入金	2,080		30		50		△20
一年内返済予定長期 借入金	1,294		1,271		1,297		△26
未払法人税等	340		289		1,174		△885
未払金	3,441		3,161		3,077		+84
賞与引当金	1,137		1,125		2,348		△1,223
返品調整引当金	23		12		22		△10
その他	2,177		2,240		1,860		+380
固定負債	16,055	16.0	16,129	15.6	15,228	15.4	+901
長期借入金	3,999		2,727		3,670		△943
退職給付引当金	11,407		10,203		10,895		△692
役員退職慰労引当金	311		—		303		△303
連結調整勘定	3		2		3		△1
その他	334		3,195		355		+2,840
少数株主持分	143	0.2	136	0.1	129	0.1	+7
資本の部	69,877	69.7	75,093	72.6	70,009	70.8	+5,084
資本金	5,174	5.2	5,174	5.0	5,174	5.2	—
資本剰余金	4,439	4.4	4,440	4.3	4,439	4.5	+1
利益剰余金	56,390	56.2	57,742	55.9	56,515	57.1	+1,227
その他有価証券評価差 額金	5,190	5.2	9,101	8.7	5,218	5.3	+3,883
為替換算調整勘定	△6	△0.0	△4	△0.0	△11	△0.0	+7
自己株式	△1,310	△1.3	△1,360	△1.3	△1,325	△1.3	△35
合計	100,238	100.0	103,499	100.0	98,909	100.0	+4,590

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当連結第3四半期 (平成17. 4. 1 から 平成17. 12. 31まで)	〈参考〉 前連結会計年度 (平成16. 4. 1 から 平成17. 3. 31まで)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー		
1 税金等調整前四半期 (当期) 純利益	4,253	9,629
2 減価償却費	1,995	3,016
3 連結調整勘定償却額	△0	△0
4 退職給付引当金及び役員退職慰労引当金の増減額 (減少: △)	△852	△5,159
5 その他引当金の増減額 (減少: △)	△1,231	△3
6 受取利息及び受取配当金	△205	△200
7 支払利息	44	90
8 投資有価証券売却損	12	—
9 有形固定資産売却益	△304	△1,369
10 売上債権の増減額 (増加: △)	△2,037	△2,085
11 棚卸資産の増減額 (増加: △)	△446	428
12 その他流動資産の増減額 (増加: △)	30	△839
13 仕入債務の増減額 (減少: △)	311	288
14 未払消費税等の増減額 (減少: △)	24	1
15 その他流動負債の増減額 (減少: △)	17	890
16 役員賞与の支払額	△0	△58
17 その他	74	306
小計	1,686	4,935
18 利息及び配当金の受取額	206	202
19 利息の支払額	△44	△90
20 法人税等の支払額	△2,028	△2,243
営業活動によるキャッシュ・フロー	△180	2,804

科目	当連結第3四半期 (平成17. 4. 1 から 平成17. 12. 31まで)	〈参考〉 前連結会計年度 (平成16. 4. 1 から 平成17. 3. 31まで)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
1 定期預金の預入による支出	△110	△120
2 定期預金の払戻による収入	110	120
3 長期性預金の預入による支出	—	△200
4 長期性預金の払戻による収入	100	100
5 有価証券の売却・償還による収入	800	2,300
6 投資有価証券の取得による支出	△1,874	△1,709
7 投資有価証券の売却・償還による収入	196	5
8 有形固定資産の取得による支出	△601	△1,646
9 有形固定資産の売却による収入	343	1,569
10 無形固定資産の取得による支出	△37	△110
11 貸付けによる支出	△20	△82
12 貸付金の回収による収入	93	114
13 投資不動産の取得による支出	—	△733
14 その他投資 (契約金) の支払	△241	△264
15 その他	—	153
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,241	△504
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
1 短期借入金の増減額 (減少: △)	△20	△3,980
2 長期借入れによる収入	—	20
3 長期借入金の返済	△969	△1,297
4 配当金の支払額	△961	△688
5 その他	△34	△448
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,985	△6,393
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	104	13
V 現金及び現金同等物の増減額	△3,302	△4,080
VI 現金及び現金同等物の期首残高	15,951	20,031
VII 現金及び現金同等物の期末残高	12,649	15,951

## セグメント情報

### 1. 事業の種類別セグメント情報

当連結第3四半期（平成17年4月1日から平成17年12月31日まで）

	医薬品 (百万円)	食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
① 外部顧客に対する売上高	34,265	7,400	41,665	—	41,665
② セグメント間の内部売上高又は振替高	3	—	3	(3)	—
計	34,268	7,400	41,668	(3)	41,665
営業費用	30,813	7,194	38,008	(3)	38,005
営業利益	3,454	205	3,660	—	3,660

前連結会計年度（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）

	医薬品 (百万円)	食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
① 外部顧客に対する売上高	45,036	9,214	54,251	—	54,251
② セグメント間の内部売上高又は振替高	4	—	4	(4)	—
計	45,041	9,214	54,256	(4)	54,251
営業費用	40,531	9,128	49,660	(4)	49,655
営業利益	4,510	85	4,596	—	4,596

(注) 1. 事業区分は、販売方法および製品の種類、性質、製造方法の類似性を考慮して区分しております。

#### 2. 事業区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品名
医薬品	神経系及び呼吸器官用薬剤、循環器系及び代謝性薬剤、泌尿器官用薬剤、消化器官用薬剤、抗がん剤、その他
食品	調味・香辛料、品質安定保存剤、たん白製剤、除菌・洗浄剤、小麦製品、健康食品素材、その他

### 2. 所在地別セグメント情報

全セグメントの売上高の金額の合計額に占める本邦の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

### 3. 海外売上高

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、その記載を省略しております。

# 主力製品売上高

(単位:百万円)

平成18年2月8日  
日本新薬株式会社

製品名	薬効	第3四半期				通期	
		H17年 3月期	H18年 3月期	前年同期 増減率	進捗率	H17年 3月期	H18年 3月期(予)
エビプロスタット	前立腺肥大症治療剤	5,202	5,066	2.6%	79.2%	6,617	6,400
ハイベン	非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤	3,817	4,014	5.2%	78.7%	4,844	5,100
セレクトール	高血圧・狭心症治療剤 腎実質性高血圧症治療剤	3,382	3,286	2.8%	80.1%	4,264	4,100
ブラダロン類	頻尿治療剤	2,944	3,179	8.0%	79.5%	3,808	4,000
ガスロンN類	粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤	2,835	2,938	3.6%	79.4%	3,618	3,700
エストラサイト	前立腺癌治療剤	2,445	2,408	1.5%	80.3%	3,123	3,000
セファドール類	抗めまい剤	2,397	2,397	0.0%	79.9%	3,058	3,000
キロサイド類	癌多剤併用療法代謝拮抗剤 再発又は難治性急性白血病治療剤	2,183	2,121	2.8%	81.6%	2,740	2,600
レフトーゼ類	出血抑制消炎酵素剤	1,809	1,782	1.5%	74.3%	2,455	2,400
アズノールうがい液	アズレン含嗽剤	934	1,140	22.1%	71.3%	1,378	1,600
オークル	抗リウマチ剤	988	870	11.9%	79.1%	1,233	1,100
オドリック	ACE阻害剤	785	711	9.4%	79.0%	989	900
リボスチン点眼液	抗アレルギー点眼液	532	475	10.7%	36.5%	1,736	1,300
リボスチン点鼻液	抗アレルギー点鼻液	312	241	22.8%	40.2%	983	600
グリコラン	経口糖尿病用剤	503	635	26.2%	79.4%	666	800
ポルトラック	高アンモニア血症治療剤	425	411	3.3%	82.2%	539	500
工業所有権等収益		869	186	78.6%	93.0%	911	200
ブルリフロキサシン原薬		360	839	133.1%	59.9%	651	1,400
受託製造		-	121	-	67.2%	1	180
医薬品計		33,830	34,265	1.3%	76.3%	45,036	44,900
食品計		7,259	7,400	1.9%	78.7%	9,214	9,400
売上高		41,089	41,665	1.4%	76.7%	54,251	54,300

# 製品開発状況

平成18年2月8日現在  
日本新薬株式会社

## < 国内開発状況 >

開発段階	商品名 (一般名)	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
申請中	ウレスパン (塩酸テミパリン)	泌尿器系	過活動膀胱	自社	自社
開発段階	治 験 (一般名)	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
P	NS - 315 (塩酸トラマトール)	炎症・ アレルギー系	癌性疼痛 (非麻薬性鎮痛剤)	導入： グリュ-ネタル社 (独)	自社
P	NS - 126	炎症・ アレルギー系	アレルギー性鼻炎	導入：IIXI製薬	共同：久光製薬
P			気管支喘息		
P	HFT - 290 (ケイン酸フェンタニル)	炎症・ アレルギー系	癌性疼痛 (麻薬性鎮痛剤)	導入：久光製薬	共同：久光製薬
P	TRK - 091 (塩酸トラマトールSR)	炎症・ アレルギー系	整外領域慢性疼痛 (非麻薬性鎮痛剤)	導入：東レ	共同：東レ
P 準備中	NS - 11 (アカンゾロゼト)	その他	アルコール依存症	導入： メルケン社(仏)	自社
P	NS - 8	泌尿器系	過活動膀胱	自社	自社
P	NS - 101 (シタピソ)	化学療法剤	髄膜癌腫症	導入： スカイファル社 (英)	自社

## < 海外開発状況 >

開発段階	治 験 (一般名)	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
P	NM441 (フルリゾキサソ)	化学療法剤	合成抗菌剤	自社	導出： 柳韓洋行社(韓)
P 準備中					導出： オプティマ-社(米)
P	NS - 8	泌尿器系	過活動膀胱	自社	導出： アホケファ社(独)
P 準備中	HMN - 214	化学療法剤	固形癌	自社	導出： アバックス社(米)
P	NS - 9	化学療法剤	肝癌(転移性肝癌)	自社	自社：米国
P	NS - 220	循環代謝系	高脂血症	自社	導出： ロシュ社(スイ)
前臨床	NS - 187	化学療法剤	慢性骨髄性白血病	自社	導出： イバイク社(米)

# 製品開発状況・補足資料

平成18年2月8日現在  
日本新薬株式会社

申請中	
ウレスパン (塩酸テマリル)	自社開発した抗コリン作用を有する過活動膀胱治療剤。既存品に比し、ムスカリンM3受容体に選択的な作用を示し、抗コリン性の副作用が少ないことが特長。一日一回投与製剤。97年3月申請、審査中。欧州で追加臨床試験を終了し、国内で追加臨床試験中。
フェーズ	
NS-315 (塩酸トラマドール)	(独)グリュエントール社から導入した非麻薬性の経口鎮痛剤で、世界100カ国以上で販売されている。NSAIDsとモルヒネの中間に位置する鎮痛剤として、癌性疼痛を対象にP試験終了。申請前相談での指摘により追加臨床試験準備中。ヤンセンファーマ社と共同開発契約締結(2005年2月)。
NS-126	エスエス製薬から導入し、久光製薬と共同開発を進めている吸入ステロイド剤で、一日一回投与を目指す。アレルギー性鼻炎についてP試験中。気管支喘息についても開発、Pa試験終了。
HFT-290 (クエン酸フェンタニル)	癌性疼痛の緩和を目的とした強オピオイドで、久光製薬から導入し、P段階からの共同開発。経皮吸収製剤技術による一日一回貼付のテープ剤。
フェーズ	
TRK-091 (塩酸トラマドールSR)	東レから導入したトラマドールの一日一回投与の徐放剤で整形外科領域の慢性疼痛を適応として共同開発。現在P段階。
NS-8	自社開発した新規作用機序の過活動膀胱治療剤。膀胱選択的なCa感受性Kチャンネルオープナーで、心血管系に影響が少なく、抗コリン作用は無い。膀胱収縮圧を低下させることなく膀胱容量を増大させ、残尿の少ない過活動膀胱治療剤として期待。徐放剤として欧州で臨床薬理試験を終了し、2003年アボゲファ社へ導出。欧州でP試験実施中。
フェーズ 準備中	
HMN-214	自社開発した新規作用機序を有するプロドラッグ型経口抗癌剤で、細胞分裂装置複合体に作用し、細胞周期のM期を阻害してアポトーシスを誘導する。多剤耐性形質(MDR-1)を抑制し、耐性癌に対する薬効を改善する特長を有する。動物モデルで各種の固形癌に対して幅広い抗腫瘍作用を示す。米国でP試験を終了。2004年米国アイバックス社へ導出し、欧米でのP試験準備中。
NS-11 (アカンブロート)	2003年(仏)メルクサンテ社から導入したアルコール依存症治療剤で、既に欧米で発売済み。国内ではP試験準備中。
フェーズ	
NS-9	自社開発したpolyI・polyCのカチオニックリポソーム製剤で、肝臓への集積効果が高く、肝癌治療剤として開発。癌細胞に特異的に移行し、ヌクレアーゼを活性化してアポトーシスを誘導する。現在、米国でP試験を実施中。
NS-101 (シタラビン)	シタラビンの徐放性製剤で2週間に一度の間歇髄腔内投与剤。髄膜癌腫症治療剤として(英)スカイファルマ社から導入。P試験終了。
NS-220	高選択的かつ強力なPPAR $\alpha$ アゴニストで、HDL上昇作用とTG低下作用を併せ持つ高脂血症治療剤。高血糖改善作用も確認されており、特に糖尿病に伴う脂質代謝改善剤として高い有用性が期待される。2003年ロシュ社への導出契約を締結。一昨年末より欧州にてP試験実施中。
前臨床	
NS-187	グリベック耐性変異体Bcr-ablチロシンキナーゼとLynチロシンキナーゼを強力に阻害、グリベック耐性にも奏効する慢性骨髄性白血病治療剤として開発。昨年末に米国イノバイブ社へ導出。